

おーい山賊

弟「兄貴どうする？引き返そうか

兄「バカ言ってんじゃねえ。ここで引き返したらどんな目に合わされるかわからねえや。

弟「でもよ、こんな雪の中じや、だいたいどこに向かってるんだよ。

兄「知らねえよ。

弟「そんな無責任な。

兄「誰も知らねえ所に逃げるしかないだろ。もう、町に戻る訳には行かねえんだ。

弟「腹減ったよ。寒いよ。死んじやうよ。

兄「じゃお前一人で戻れ。俺は命が惜しいんだ。

弟「こんな事してたら死んじまうよ。

兄「戻っても同じだろう。いいから歩け。

何をしくじったのか人相の良くない男が二人、雪山をさまよっています。

兄「おい、あそこに誰か居るぞ。相手は一人だ。二人で襲って身ぐるみ剥いじまおう。よし行くぞ。ひのふのみ

兄「おい、待ちな。俺たちは山賊だ。

村1「そだな薄着で寒くねえのか？

兄「山賊は寒くねえ。

弟「兄貴、寒いよ。

兄「うるせえ。黙ってろ。おい、村人、着ている物をおいて行け。

村1「寒いんでねえか？

兄「俺たちは山賊だ。寒くはねえ。グズグズ抜かしてるとこの刀で首と胴が繋がってねえなんて事になるぞ。

村1「刀ってそりや棒切れでねえか

兄「俺たちは山賊だ。気が短いんだ。いいから早くしやがれ。

村1「全部はおらも凍え死ぬから、これだけならお前さやる。

兄「おい、全部脱いでおいてけ、どこへ行く

村1「ちょいとここで待っててけろ。さんちゃん。

兄「さんちゃん？おい、逃げたって無駄だぞ、こっちは後ろから袈裟懸けに…まで、おい、まで！

弟「兄貴、恐ろしく足がはやいよ。

兄「逃げられちまつたか。

弟「こんな情けねえ山賊いるか？なあ、兄貴。

兄「うるせえ。雪道は慣れてねえんだよ。

村1「おかしいな。確かこの当たりだと思ったけど、どこ行ったかな。おーい山賊。おーい山賊。

弟「兄貴、声が聞こえるぞ。

兄「え？

弟「山賊って呼んでるよ。

兄「山賊だ?

弟「俺たち探してるんじやねえか?

兄「馬鹿な事言うんじやねえや。山賊とわかつて向こうから来るやつがどこにいる

弟「兄貴、そもそも俺たち山賊なのか?

兄「山賊だろうよ。

弟「だってさっき山に入ったんだよ。名乗って初日なんだから、まだ真打ちってわけにはいかないよな?

兄「山賊の真打ちなんであるか。

村1「どこ行った? おっちゃんだか? おーいさんちゃんよー。

兄「さっきの野郎だ。性懲りもなく戻ってきやがった。

弟「兄貴どうする?

兄「よし、挟み撃ちだ。声を頼りにお前は向こうから回り込め。ひのふのみ

と飛び出すと吹雪いていた雪がピタリとおさまった。先程の男を先頭に、十数人の村人が

兄「いけねえ。

弟「兄貴どうする

兄「しくじった。まさか仲間を連れてくるとは思わなかつた逃げるぞ。

弟「兄貴、だめだ。足が雪に埋まって進めねえ。

兄「何をしてるんだよ。早く逃げねえと。

村1「オメエら。

兄「なんだ、俺は山賊だぞ!

村1「そだな格好で寒いだろ。ほら、これ着ろ。

村2「足元から冷えるのよ。はい。これ。

村3「腹減ってるだろ。握り飯持ってきたぞ。

村4「火の起こし方知ってるか?

兄「兄貴、どういう事だよこれ。

兄「し、知らねえよ。

村1「今晚泊まるところあるけ? お前ら街からきたのか?

兄「おい、俺たちは山賊だぞ! わかつてるとか! お前らヒデュ目に合わせるぞ!

村1「おい、みんな聞いたか? この人達は山賊だってよ。

村2「山賊さんか?

村3「山賊ねえ。

村4「よ、さんちゃん

兄「誰ださつきからさんちゃんって言うやつは。

村1「山賊の二人、ここは初めてか?

兄「俺たちは、先祖代ここで悪さを働いて

村1「ウソいうでねえ。こんな雪深い所で暮らせる訳がねえ。困ってるなら、この先に山小屋がある。ちょいと直せばまだまだ住めるから、そこ使え。

弟「ありがとうございます！」

兄「バカ野郎、山賊が頭なんか下げるんじゃねえ。この先の山小屋を乗っ取って俺たちのアジトにするんだよ。」

村1「屋根、雨が漏るから濡れねえように気をつけて。表の戸が外れやすいからな。」

弟「ありがとうございます。」

兄「だから頭を下げるなよ。山賊は水に濡れたぐれえ気にしねんだ。」

村1「バカいうでねえ。こんな寒い時期に水に濡れたら命取りだ。雪山を軽くみるでねえ！」

兄「すまねえ。」

弟「兄貴も謝ってるじやねえか。」

兄「うるせえ。俺たちは山賊だぞ！」

なんてんで、ここに居つくようになります。

子「さんちゃん、みかんもってきたよ。」

弟「ありがとう。こんなに持ってきててくれたの？」

子「いいんだよ。おつかさんが腐っちゃったらもったいないからって。」

弟「ありがたいけど、こんな山奥まで子供がくると危ないから。」

子「何言ってるんだよ。学校から帰ってきたら友達ともっと遠くまでいくんだよ。」

弟「すごいな。俺なんかちょっと歩くだけでも息切するのに。」

子「山賊のくせに情けねえなあ。」

兄「バカ野郎！俺たちは山賊だ。子供なんかと口きくんしやねえ。」

子「あ、さんちゃん兄貴だ。」

兄「てめえ、俺様に向ってなんてことを

子「さんちゃん兄貴、まだ屋根の修理してないの？昨日やるって言ったのにやってないんでしょ。お酒飲んで寝たんでしょうわかるんだから。ちゃんとやらないとおつかさんに言いつけるよ。」

兄「わかってるよ。今日やるんだよ。」

子「早くやらないと、日が暮れちゃうよ。」

兄「はいはい。」

子「返事は一度。」

兄「はい。」

弟「兄貴、いいのかい？」

兄「うるせえな、言いつけられると食い物と酒持ってきて貰えなくなるだろ。」

弟「情けねえ山賊だな。」

弟「兄貴、いいのかよ。」

兄「どうした？」

弟「だってよ。」

兄「ん？」

弟「俺たち山賊だろ？」

兄「そうだ。」

弟「山賊がこたつ入ってみかん食ってるなんて聞いた事ないぞ。」

兄「いいんだよ。新しい形の山賊なんだよ。

村長「待たせて済まなかったな。

兄「あ、村長さん。こちらこそお招きいただき光栄にございます。

弟「兄貴。

兄「うるせえなあ。いんだよ。いい思いさせてもらってるんだから。

村長「折り入って相談がある。

兄「へいへい。なんでも言ってください。

村長「近頃良からぬ連中が村に入ってきて悪さをする。そこで山賊に相談だ。コイツらが入って来ないように、峠で追っ払ってもらいたい。私達の村は争いを好まない。見ての通りみんな家族みてえなもんだから、だれ彼構わず信用しちまうんだ。

兄「お安いご用で。

村長「そこでこれを用意した。

後ろのふすまが開くと

兄「おいバカ野郎！ヒグマが入ってきやがった。

村長「落ち着いて見ろ。これはくまの毛皮だ。こいつを被って、手には山刀伐峠を持って追っ払ってもらいてえ。そんな格好じや誰も山賊だと思わねえからな。だいたいお前ら雪道も満足に歩けねえんだ。ちょいと脅かすぐれえしかできねえだろう

兄「おっしゃる通りでございます。

弟「兄貴、ここに来た時の勢いはどうしたんだよ。

兄「いいんだよ。こちらの皆様のおかげで生きられてるんだから。

村長「悪そうなやつだけで構わネエからな。

兄「わかりました。早速今日から見回り開始します。

元々街で良からぬ事をしていた自称山賊ですから、同じ匂いがする人間なんてのは簡単に見抜ける訳でございまして。

兄「おい、クセエな。

弟「え？俺の屁そんなんにクセエか？

兄「お前じやねえや。向こうから来る野郎だ。よし、出番だな。

と躍り出ると。

兄「おい、旅のモン、ここをどこだと

旅「あ！ああ！出た！バケモンだ！

兄「なんだよ最後まで言わせろよ。

なんてんで、悪そうなやつは追い返す。他の旅人はここを通すなんてやっております。

弟「兄貴、腹減ったなあ。

兄「仕方ねえだろ。お前が行商の壱兵衛さん追い返しちまったからその罰だ。

弟「でもよ。

兄「俺は言ったよな？ あれ杔兵衛さんだって。お前が先に出ていくから。

弟「そうだけどよ。

兄「これで杔兵衛さん3度目だぞ。いい加減に覚えろよ。

弟「兄貴、すまねえ。

兄「お前がしくじると俺までお預け食らっちまうんだから。

弟「兄貴。山賊の下請けなんて聞いた事ねえぞ。

兄「いいんだよ。こうやって生かしてもらえる。感謝しなくちゃいけねえ。

弟「兄貴、変わったな。

村はこの山賊のおかげで平和が保たれる。そうなると元々温泉地ですから、観光客も安全だってやってくる。共存共栄ってやつで。

弟「兄貴、寒くねえか？

兄「寒いよ。仕方ねえだろ。こういう祭りなんだから。

弟「山賊が祭りに参加するってのも。

兄「うるせえ。ようやく俺たちも認められたんだよ。仲間になれたんじゃねえか。始まつた。行くぞ。ほーほー

弟「兄貴楽しそうだな。

女「あら、山賊さん、獅子の肉いるかい？

兄「いいんですか？

女「そりゃそうよ。いつも助けてもらってるんだから。

兄「へい。すみません。

女「うちの子に後で届けさせるから。

兄「ありがとうございます。

ある日の事

村長「なんだい？誰かと思ったら山賊じやねえか。まあまあお上がり。

兄「ありがとうございます。

村長「ばあさん、山賊がきたからお茶だしてやりな。お茶菓子に羊羹なんざどうだい？

兄「羊羹？ ありがとうございます

村長「何か面白い話でもないかい？

兄「あ、そういえば

村長「どうした？

兄「この間、悪いやつ追い返した時に話を聞いたんです。

村長「いつも済まないなあ。

兄「いえ、その野郎がいうには、この温泉がいいって評判が、お殿様の耳に届いたって、そのご子息が今度来るって話でしたよ。良かったじゃないですか。さらに発展しますよ。こんな心強い援軍はないですね。

村長「子息？」

兄「ええ

村長「いや、援軍なら山賊で十分だ